

敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告書

平成26年度～28年度

地域・在宅ケア研究センター



地域・在宅ケア研究センター活動報告書発刊によせて

敦賀市立看護大学
学長 交野好子

わが国におきましては、高齢化の進展による社会環境の変化、医療や看護の高度化などにより看護師に求められる能力も大きく変化してまいりました。一方、医療や看護を受ける対象のニーズも多様化しています。こうした状況を踏まえて、質の高い医療や看護が提供できる人材の育成を行うため平成26年4月に敦賀市立看護大学が開設いたしました。大学開設と同時に大学に「地域・在宅ケア研究センター」を設置いたしました。本センターを設置した目的は、高齢化の一層の進展を受け、健康で自立した生活を続けられるための健康づくりや介護予防にあります。また、近年、自宅での医療や介護を必要とする住民が増加していることから、在宅においても質の高い看護を提供していくために研究を通して在宅看護技術の開発を推進していくことが本センターの目指すところです。



本年は、大学の開学以来3年が経過いたしました。学生も1年次生から4年次生まで224名が在籍しております。教職員もほぼ全員が揃いました。若い学生たちで大変にぎやかになり、大学らしくなってまいりました。それと同時に本センターの活動も多義にわたってまいりました。本センターの目標は大きく3つ挙げております。研究につきましては地域・在宅看護支援モデルの開発や地域の健康ニーズの把握、また、地域貢献といたしましては地域住民の健康づくり事業、教育では地域と連携した学生の学習活動の推進と看護職の看護実践能力および研究能力の向上のための支援であります。

このような目標を達成していくために初年度から徐々に活動を開始いたしました。以下に地域貢献活動の幾つか例を挙げさせていただきます。まず、地域住民の健康づくり支援の一つとして、健康に関する知識の普及、公開講座の開催、健康相談や介護相談、認知症サポーター養成等を取り入れた敦賀市立看護大学喫茶の開催、地域住民の健康評価としての健康チェックなどです。詳細につきましては、本報告書に掲載させていただきました。次に、教育では看護職の研究能力の向上を目指した看護研究方法論の講義および研究指導等を行ってまいりました。地域・在宅看護学領域の研究も推進しております。

平成29年度からは、FMラジオを活用して研究や専門領域の情報発信をしております。さらに、敦賀市における医療に係る多職種間の理解と連携を目指して、本センター主催の研究を中心とした報告会の開催の準備を行っているところです。

以上のように「地域・在宅ケア研究センター」においては大学と地域を繋ぐ架け橋として地域住民の疾病予防や健康レベルの維持・向上に貢献できるような活動の推進と、地域・在宅看護学の発展に繋がる研究活動に取り組んでまいります。敦賀市立看護大学の「地域・在宅ケア研究センター」を大きく育てていただくために地域住民の方々のご意見もお寄せいただけることを願っております。

目 次

地域・在宅ケア研究センター活動報告書発刊によせて

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 研究センター設置の基本的な考え方	1
2. 研究センターの事業	1
3. 組織構成	2

II. 活動報告

1. 教育

1) 看護研究方法論講座

概要	3
(1) 平成 26 年度	4
(2) 平成 27 年度	5
(3) 平成 28 年度	7

2) 看護大学喫茶事業

概要	9
(1) 平成 27 年度	9
(2) 平成 28 年度	10

3) 平成 28 年度美浜町国民健康保険医療費分析業務への助言

11

2. 研究

1) 平成 26 年度～27 年度	13
2) 平成 28 年度	15

3. 地域貢献

1) 市民公開講座

概要	16
(1) 平成 27 年度	16
(2) 平成 28 年度	18

2) 敦賀市認知症カフェ「つながりカフェ」サポート

19

3) 美浜町健康づくりフォーラム

(1) 平成 27 年度	21
(2) 平成 28 年度	21

4) 地域イベント等及び各種ボランティア参加

(1) 平成 26 年度	22
(2) 平成 27 年度	23
(3) 平成 28 年度	25

5) 健康相談室の開室

27

1. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 研究センター設置の基本的な考え方

地域・在宅ケア研究センター（以下「研究センター」とする。）は公立大学法人敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立された。

地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深める。

また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与する。

2. 研究センターの事業

研究センターの事業は地域住民の健康づくり、在宅支援などによる地域貢献、学生の学習活動と地域との連携や看護職の看護実践能力・研究能力支援のための教育、地域の健康評価における健康ニーズ調査などの研究を行う。教育、研究、地域貢献の事業内容は図1に示した。

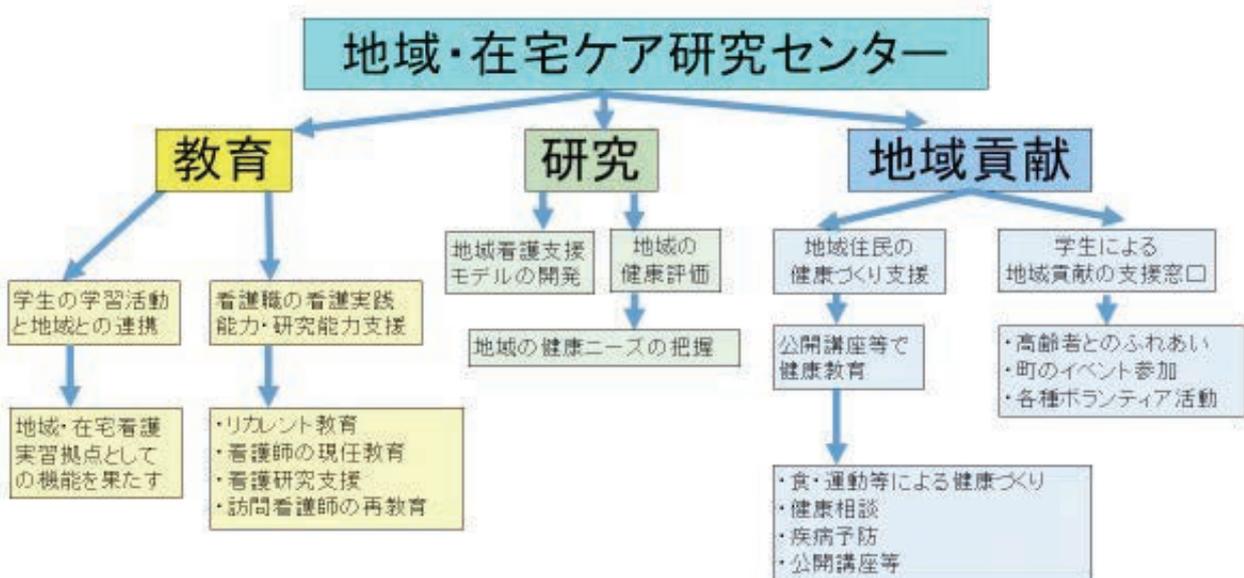


図1 地域・在宅ケア研究センターの事業内容

3. 組織構成

地域・在宅ケア研究センターの位置付けを図2に示した。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員である。

法人・大学組織図

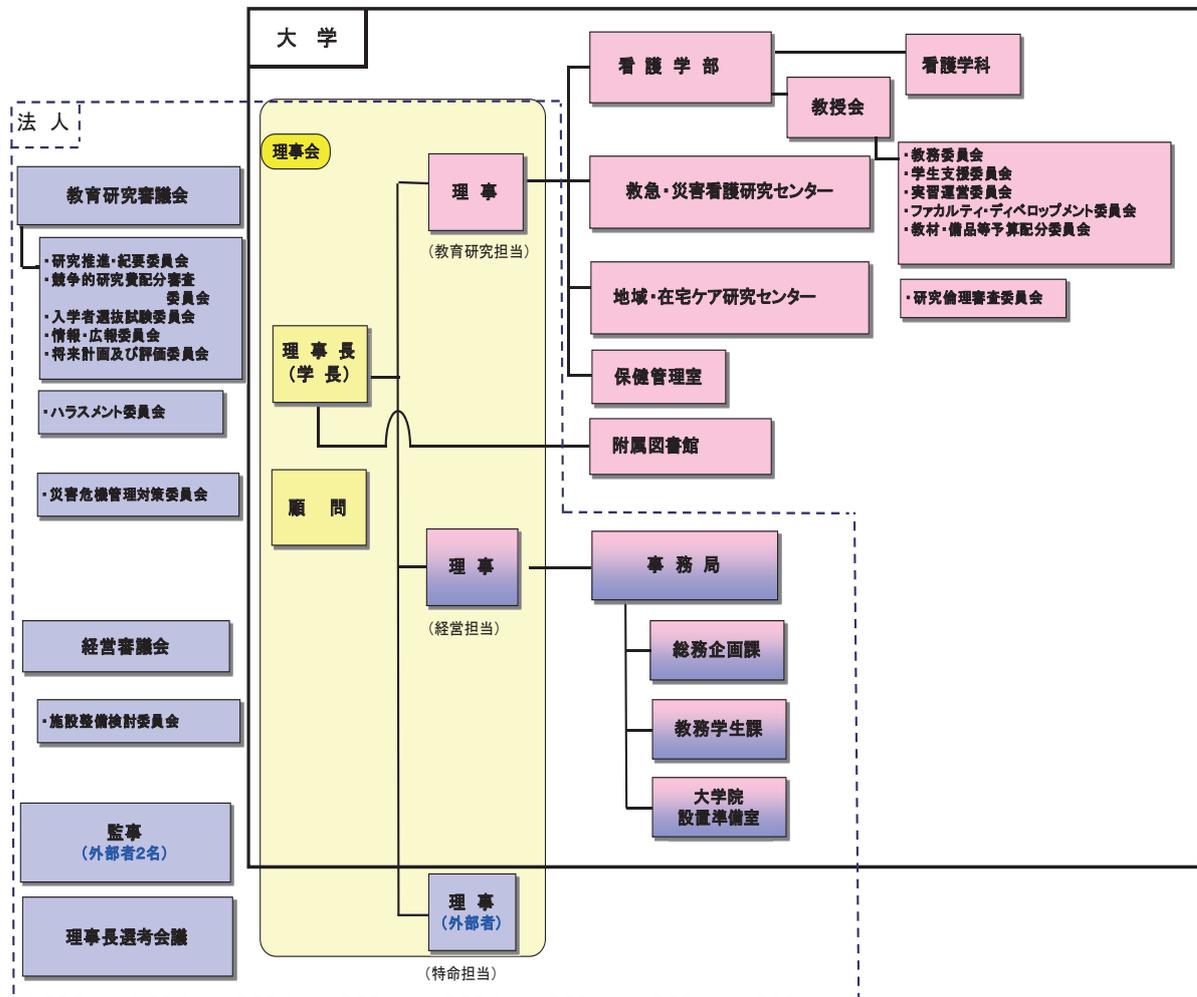


図2 地域・在宅ケア研究センターの位置付け

Ⅱ. 活動報告

1. 教育

1) 看護研究方法論講座

看護研究方法論講座実施要項

1. 看護研究方法論講座の目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを支援する。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、自信を身に付け、看護を探究する姿勢を高めることを支援する。
- 3) 研究発表により当該施設を間接的に広報できることを支援する。
- 4) 大学と当該施設の良好な関係を構築し、当該地域における医療・看護が円滑に行えるようにする。

2. 指導対象者

- 1) 敦賀市および美浜町の医療・保健・介護関係施設に勤務する看護職者
- 2) 受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で 20 件程度

3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法に関する講義・演習を行う。
日時・内容の詳細は別途定める。
- 2) 個人またはグループで研究テーマを決め、4月末日までに研究指導申込書を作成する。ただし、研究テーマについて相談に応じる。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を配置する。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究（本学の倫理審査を受ける権利の保証）という関係で研究をすすめていく。
- 5) 研究発表会や学会等で発表する。
- 6) 可能な限り論文作成をめざす。

(1) 平成 26 年度看護研究方法論講座

①大学において看護研究に関する講義を行った。講座の日時、内容、担当教員名を表 1 に示した。

表 1 平成 26 年度 看護研究方法論講座概要

日 時	講 義		担当教員
2 月 7 日 13:30	第 1 回	「看護研究入門」	交野好子
	第 2 回	「研究の種類・質的研究」	山崎松美
2 月 21 日 13:30	第 3 回	「研究の種類・量的研究」	鈴木隆史
	第 4 回	「研究計画書の書き方」	岩谷澄香
3 月 7 日 13:30	第 5 回	「研究と倫理・倫理審査とは」	茂庭将彦
	第 6 回	「研究課題の検討」	伊部亜希、茂庭将彦、 吉川由希子、山崎弘美、 岩谷澄香、河合正成、 山崎松美、深沢裕子、 北村隆子、鈴木隆史、 交野好子

②講座受講者の状況

6 施設から参加があった。参加者数は、第 1 日目が 51 人、第 2 日目が 42 人、第 3 日目が 45 人で、延べ 138 人であった。施設別参加状況を表 2 に示した。

表 2 平成 26 年度 看護研究方法論講座参加状況

施設名	講 義			参加者 延べ数
	2 月 7 日	2 月 21 日	3 月 7 日	
泉ヶ丘病院	9	8	8	25
国立病院機構福井病院	27	19	23	69
敦賀温泉病院	5	5	5	15
市立敦賀病院	5	3	4	12
敦賀市健康管理センター	2	3	2	7
敦賀市立看護専門学校	3	4	3	10
合 計	51	42	45	138

(2) 平成 27 年度看護研究方法論講座

①大学において看護研究に関する講義を行った。講座の日時、内容、担当教員名を表 3 に示した。

表 3 平成 27 年度 看護研究方法論講座概要

日 時	講 義	担当教員
2 月 6 日 13:00	第 1 回 「看護研究入門」	交野好子
	第 2 回 「研究と倫理・倫理審査」	茂庭将彦
2 月 20 日 13:00	第 3 回 「研究の種類・質的研究」	長井麻希江
	第 4 回 「研究の種類・量的研究」	鈴木隆史
3 月 5 日 13:00	第 5 回 「データ入力と分析方法」 (コンピュータ演習)	住本和博 (鈴木隆史、野沢和也)
	第 6 回 「研究計画書の書き方」	木谷尚美

②講座受講者の状況

4 施設から参加があった。参加者数は、第 1 日目が 17 人、第 2 日目が 17 人、第 3 日目が 22 人で、延べ 56 人であった。施設別参加状況を表 4 に示した。

表 4 平成 27 年度 看護研究方法論講座参加状況

施設名	講 義			参加者 延べ数
	2 月 6 日	2 月 20 日	3 月 5 日	
(有)リハぷらす訪問看護 ステーションみはま	1	1	1	3
国立病院機構 敦賀医療センター	16	16	18	50
市立敦賀病院	0	0	2	2
敦賀市立看護専門学校	0	0	1	1
合 計	17	17	22	56

③研究サポート

講座受講後、研究指導申し込みが 8 件あり、研究サポートを行った。

8 件とも国立病院機構敦賀医療センターからの申し込みであった。研究成果は、平成 28 年 1 月 26 日から 27 日にかけて院内で発表された。研究テーマ、研究者、指導教員を表 5 に示した。

表5 平成27年度 研究指導実績

No	テーマ	施設名	研究者名	担当教員
1	病棟看護師の退院調整に関する研究	国立病院機構 敦賀医療センター 【2階病棟】	林加奈子 池田真弥子 黒川綾子	河合正成
2	男性看護師が職場環境に与える影響 ～女性看護師へのアンケート調査を通して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【3階病棟】	清水太久真 福塚重徳 上條君江 林祐樹 村松恒	岩谷澄香
3	慢性心不全患者における心不全増悪の 要因、前兆の調査	国立病院機構 敦賀医療センター 【4階病棟】	田中祐太 別府みさ 年梅直子 菅沼知世 谷川翔 金谷繁美 西川直美	山崎松美
4	地域包括ケア病棟に入院する患者の 実態調査	国立病院機構 敦賀医療センター 【5階病棟】	関深香子 竹森友香 西野宏美 竹岡佳恵 西野さゆり 近藤好美 江口由子	山崎松美
5	手術室入室時の申し送りの現状 ～情報共有の視点から改善点を探る～	国立病院機構 敦賀医療センター 【手術室】	藤山和美 杉本涼輔 随原さとえ 本間みどり	河合正成
6	長期入院中である壮年期の重症心身障害者 をもつ母親の思い ～親の高齢化と子どもの加齢の中で～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟1階】	渡邊麻生 竹岡遼 谷橋千鶴子 岡本美佳	吉川由希子
7	筋緊張により呼吸障害を起こしやすい 重症心身障害児への看護 ～ケア前の温罨法・脱感作を実施して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟2階】	加藤美恵 永宮章宏 上西美江 古川美千代 田淵美津子	吉川由希子
8	天然性ミオパチーの子どもを持つ 母親の思い ～患者・家族に寄り添った看護に向けて～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟3階】	山口静雄 和田美有紀 中村真奈美 秋山弘美 森北裕美子	吉川由希子

(3) 平成 28 年度看護研究方法論講座

①大学において看護研究に関する講義を行った。講座の日時、内容、担当教員名を表 6 に示した。

表 6 平成 28 年度 看護研究方法論講座概要

日時	講義	担当教員
2月4日 13:00	第1回 「看護研究の概要」	畑野相子
	第2回 「看護研究方法論」	吉川由希子
2月18日 13:00	第3回 「研究の種類・質的研究」	木谷尚美
	第4回 「研究の種類・量的研究」	伊部亜希
3月4日 13:00	第5回 「研究と倫理・倫理審査」	茂庭将彦
	第6回 「文献検索」 (コンピュータ演習) 「看護計画書の作成について」	住本和博、野沢和也、 池原弘展 家根明子、鈴木隆史、 中堀伸枝、木谷尚美、 畑野相子

②講座受講者の状況

4施設から参加があった。参加者数は、第1日目が21人、第2日目が16人、第3日目が19人で、延べ56人であった。施設別参加状況を表7に示した。

表 7 平成 28 年度 看護研究方法論講座参加状況

施設名	講義			参加者 延べ数
	2月4日	2月18日	3月4日	
(有)リハぷらす 地域看護ステーション	1	0	1	2
瀧澤助産院	2	2	0	4
国立病院機構 敦賀医療センター	17	13	16	46
市立敦賀病院	1	1	2	4
合計	21	16	19	56

③研究サポート

研究指導申し込みは9件だった。施設別では、国立病院機構敦賀医療センターが8件、(有)リハぷらすが1件であった。研究成果は、平成29年1月30日から31日にかけて国立病院機構敦賀医療センターで発表され、担当教員は講評に当たった。他の1件は継続研究となった。研究テーマ、研究者、指導教員を表8に示した。

表 8 平成 28 年度 研究指導実績

No	テーマ	施設名	研究者名	担当教員
1	重症心身障害施設利用者がもつ死生観	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟 1 階】	宮下阿佐子 岡本美佳 大崎由美 小野清美 金田和也	吉川由希子
2	壮年期にある重症心身障害者の声から立案した新たな看護ケアによる介入とその評価～ブレインストーミングを実施して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟 2 階】	石倉真由美 渡邊麻生 山本真唯 中條富美子 村松恒	長井麻希江 杉山由香里
3	重心病棟に初めて配置転換した看護師の戸惑いについて	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟 3 階】	和田美有紀 嶋田文枝 谷橋千鶴子 田端美津子	吉川由希子
4	終末期がん患者への退院支援に関する研究～在宅移行チェックリストを用いた効果～	国立病院機構 敦賀医療センター 【 2 階病棟】	池田真弥子 中田紗世 寺本恵 酒井萌 若林世津子 高城絵美 金谷繁美 井村敏子	高原美樹子 河合正成
5	深部静脈血栓症の予防に関する研究	国立病院機構 敦賀医療センター 【 3 階病棟】	山上春美 奥野あかね 清水柚衣 工藤梓 林祐樹 榎千登美	高原美樹子 河合正成
6	当病棟入院患者の口腔内状態の実態調査	国立病院機構 敦賀医療センター 【 4 階病棟】	菅沼知世 松井奈緒美 中島直子 田中祐太 谷川翔 岡村真奈美 西川直美	山崎松美
7	地域包括ケア病棟におけるユマニチュードの技法を用いた生活リハビリテーションの効果	国立病院機構 敦賀医療センター 【 5 階病棟】	高尾昭美 上條君江 橋本佳代子 竹森友香 岡平未来 近藤好美 江口由子	木谷尚美
8	陰圧式固定具を使用し頭低位をとった際の体圧変化	国立病院機構 敦賀医療センター 【手術室】	杉本涼輔 杉田朋美 稲垣リサ 本間みどり	池原弘展
9	女性介護者の家族に対する訪問看護師の支援方法	(有)リハぶらす	山路香織 上野山真希	鈴木隆史

2) 看護大学喫茶事業

看護大学喫茶事業の概要

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気楽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成 28 年 3 月から「看護大学喫茶」を開始した。内容は、教員の専門性を活かしたミニ講演、教員及び学生によるミニコンサート、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック（体力測定）・健康相談を軸に構成した。

(1) 平成 27 年度看護大学喫茶事業の実績

①平成 27 年度は、本学で 1 回、美浜町で 1 回、合計 2 回開催した。概要は表 1 に示した。

表 1 開催状況と参加者数

開催日時 (場所)	内容	教職員・学生 (学生再掲)	参加者	備考
第 1 回 3/3 (木) 9:30-11:00 (美浜町)	①ミニ講演 「敦賀市立看護大学のストーリー」 ②グループごとの交流	4 (0)	33	老人家庭相談員対象 町保健師 1名協力参加
第 2 回 3/19 (土) 13:30-16:00 (大学)	①ミニ講演「認知症への理解」 ②ミニコンサート（音楽サークル） ③喫茶コーナーでの交流 ④健康相談	32(18)	46	

②まとめ

平成 27 年度は、美浜町と大学にて 2 回開催した。美浜町では、老人家庭相談員を対象に、大学への理解を深めてもらうミニ講演と、交流しながら相談活動での対応についてアドバイスを行った。大学での開催においては、認知症サポーター養成講座を兼ねたミニ講演を企画したことにより、住民の関心の高さもあり、多くの参加を得た。音楽サークルの学生によるミニコンサートや、地域住民と教職員・学生との交流を行った。参加者全員が「よかった」「まあまあよかった」と回答し、満足度も高かった。同時に、内容や時期をはじめ定期開催に向けた課題も抽出され、次年度に向けた第一歩となった。



第 1 回看護大学喫茶（美浜町）



第 2 回看護大学喫茶

(ミニ講演：認知症サポーター養成講座)

(2) 平成 28 年度看護大学喫茶事業の実績

①平成 28 年度は、本学で 3 回開催した。概要を表 2 に示した。参加者のアンケート結果を図 1、図 2 に示した。

表 2 開催状況と参加者数

開催日時 (場所)		内容	教職員・学生 (学生再掲)	参加者	備考
第 1 回	7/2 (火) 13:30-15:30 (大学)	①ミニ講演「生活習慣病の予防」 ②ミニコンサート (音楽サークル) ③喫茶コーナーでの交流 ④健康チェック (体力測定) ⑤健康相談	37 (23)	20	
第 2 回	11/5 (土) 10:00-14:30 (大学)	①ミニ講演「睡眠」 ②健康チェック (体力測定) ③健康相談	10 (0)	94	大学祭に併せて開催
第 3 回	3/18 (土) 13:30-15:30 (大学)	①ミニ講演「生活習慣病の早期発見」 ②ミニコンサート ③喫茶コーナーでの交流 ④健康チェック (体力測定) ⑤健康相談	19 (0)	19	

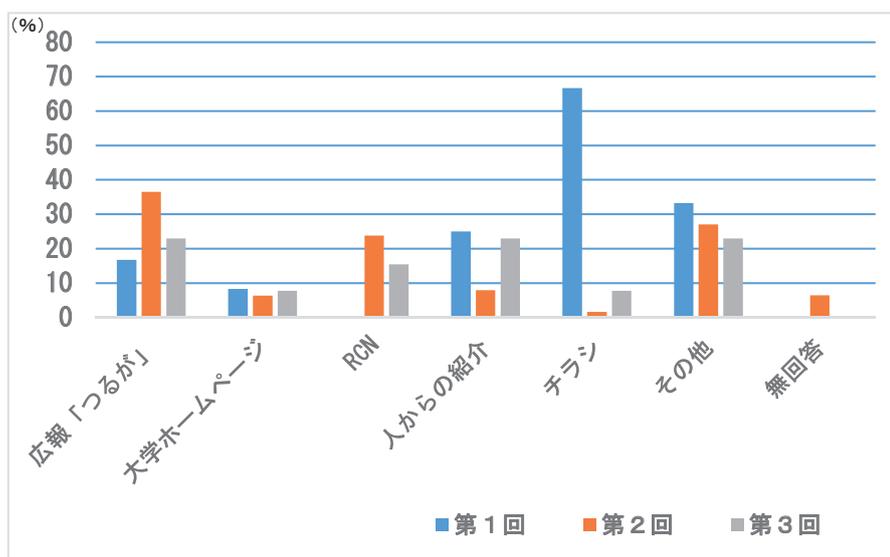


図 1 看護大学喫茶を知ったきっかけ (複数回答)

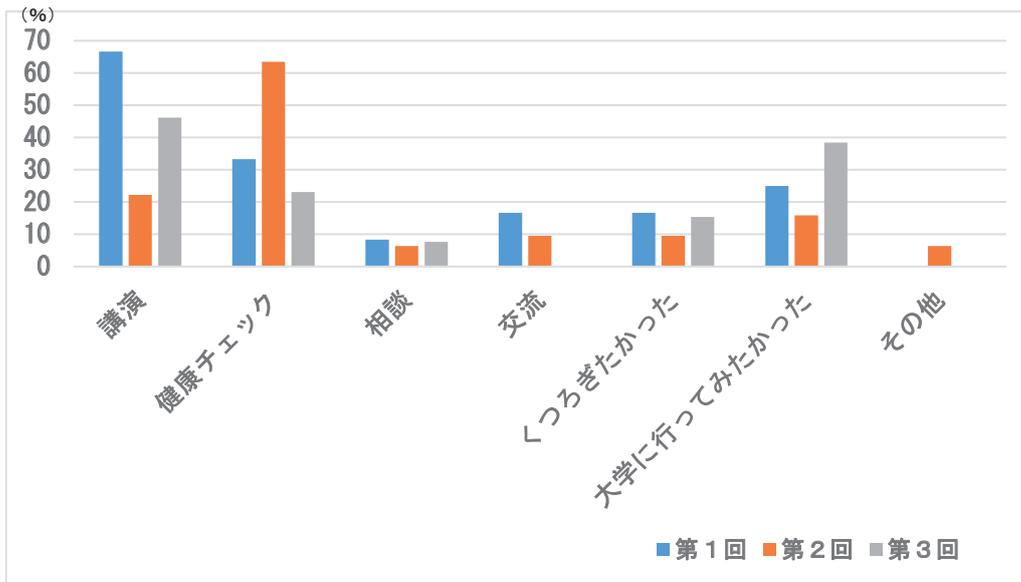


図2 看護大学喫茶への参加理由（複数回答）

②まとめ

第1回と第3回は、20名程度の参加者とともに教職員や学生との交流も和やかな雰囲気の中で行うことができた。ミニ講演は、前年度の参加者の要望を踏まえ、生活習慣病をテーマに取り上げた。興味関心が高い身近なテーマであることから、熱心に聴講する参加者が多く、血圧や血管年齢等の健康チェックにより、健康づくりへの意識向上の一助につながったと考えられる。第2回は、大学祭と同時開催とし、ミニ講演や健康チェック（体力測定）・健康相談を中心に行った。大学祭との同時開催により、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加があり盛況であった。

平成27年度からスタートし、これまでに5回開催してきた本事業は、どの回も参加者は「よかった」「まあまあよかった」と回答しており満足度が高い。また、少しずつリピーターも増えている。特に個別の健康相談への希望が多く、その満足度も高い。徐々に参加者層が広がりつつある本事業は、参加動機も多様化し、大学としてのアカデミックな側面を期待する声も高まっている。このため、参加者のニーズを汲んだプログラムの工夫が一層求められる。また、開催時期や大学行事との併催により参加者層や数に変動することから、それらを踏まえた内容の検討と事業の効果も今後の課題である。

3) 平成28年度美浜町国民健康保険医療費分析業務への助言

本業務は、美浜町の一人あたりの国民健康保険にかかる医療費が、県内において最も高い水準にあるため、現状を細かく分析し、その結果を活用の上、医療費の適正化を図る目的で実施された。適正に医療費を分析するため、学識経験者としての立場でアドバイスしてほしい旨の要請があったので、学部長の茂庭将彦が助言にあたった。

これを受けて、美浜町では、平成29年度に美浜町医療費適正化検討部会を立ち上げるので部会長になってほしい旨の依頼があり、対応することになった。



平成 28 年度第 1 回看護大学喫茶：学生との交流



平成 28 年度第 2 回看護大学喫 (健康チェック)



平成 28 年度第 2 回看護大学喫茶
(こどもたちの遊びスペース)



平成 28 年度第 3 回看護大学喫茶
(ミニ講演：生活習慣病の早期発見)

2. 研究

1) 平成 26 年～27 年度における研究実績

(1) 出産後 1 か月目に母親が直面する困りごと

(学会発表：第 29 回福井県母性衛生学会学術集会)

研究者：中堀伸枝¹⁾ 岩谷澄香¹⁾ 深沢裕子²⁾ 鈴木隆史¹⁾

1) 敦賀市立看護大学 2) 金沢医科大学

目的：出産して退院後 1 か月目に母親が直面する困りごとを明らかにし、産後のサポートのあり方について検討することを目的とした。

方法：調査対象は 2014 年 11 月～12 月に A 市内総合病院の産婦人科で出産し、1 か月児健診に来院した母親 10 名に「退院後、自宅や里帰り先の実家に帰ってから経験した困りごと・心配ごと」について半構成的インタビューを実施し、類似コードのカテゴリー化を行った。

結果：対象者は平均 32.2 歳、自然分娩 6 人、帝王切開 4 人、初産婦 3 名、経産婦 7 名であった。里帰りしているものが 7 人、自宅に帰っているものが 3 人で自宅に帰った 3 人のうち、毎日実母が通うもの 2 人、自宅が実家の隣が 1 人であった。自宅の家族構成は全員が核家族、現在の主な支援者は全て実母であった。

分析の結果、5 つのカテゴリー【自宅に帰ってから、家事・育児をしなくてはいけないことへの不安】、【上の子への対応の困難さ】、【赤ちゃんが寝ないことへの戸惑い】、【実母への負担の大きさ】、【褥婦自身の体調への不安】と 21 のサブカテゴリーが生成された。

結論：産後 1 か月の時点では母親の生活は、実母の全面的なサポートの上に成り立っていた。これらから産後のサポートとして、妊娠中から里帰りが終わった後の生活を視野にいたした指導、上の子の成長発達に応じた対応の仕方を母親とともに考えていくこと、現状の実母による産後サポート体制にかわる行政的支援を充実させることが重要であると考えられる。

(本研究は、平成 26 年度に敦賀市立看護大学競争的研究費の配分を受けて実施した研究である。)

(2) 退院から在宅療養初期においてがん患者および家族が直面する問題

(研究論文：敦賀市立看護大学ジャーナル第 2 号)

研究者：交野好子¹⁾ 中堀伸枝¹⁾ 山田由紀子²⁾

1) 敦賀市立看護大学 2) 国立病院機構敦賀医療センター

本研究では、がんに罹患した患者が、医療機関から退院し在宅療養に移行するにあたって、また、在宅療養を開始した後どのような不安や心配を感じているのかを明らかにすることを目的に取り組んだ。

研究は、帰納的アプローチによる質的記述的方法を用いた。研究対象者の選定は当該病院の医師および看護師から事前に対象者に説明を行ってもらい同意が得られた人 9 名であ

る。研究期間は平成26年12月から平成27年5月までの5か月間である。データ収集の方法は半構成的質問を用いた面接により行われた。

本研究結果からは、退院後においてもがんを予期する過程を経ず、想定していなかった患者は、がんという病気を受容しきれずにいた。また、がんの種類によっては、乳がんでは上肢の可動域障害等により患側上肢の挙上困難感や胃の切除後の患者では、食生活の再構築等の課題を抱えていた。さらに、これから始まるであろう化学療法である抗がん剤の使用については、副作用への恐怖が多く抽出された。また、高齢のがん患者を抱える家族の場合は家族への影響等がデータ分析の結果導かれた。

これからは在宅医療の中心になって患者を日常生活面から支えるのは看護師である。本研究により得られた結果はがん患者に限定したものであると同時に、極少数の患者からのインタビューによるものである。今後は、在宅における看護のあり方や看護技術の開発に繋げるための基礎研究として、さらに発展させていきたいと考える。

(本研究は、平成26年度に敦賀市立看護大学競争的研究費の配分を受けて実施した研究である。なお、本研究は福井県共同リポジトリ (<http://crf.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/>) に掲載し、大学外への情報発信を行っている。)

(3) 認知症の徴候があらわれた時の家族の対応

(研究論文：敦賀市立看護大学ジャーナル第2号)

研究者：深沢裕子¹⁾ 鈴木隆史²⁾ 中堀伸枝²⁾ 上出友美恵³⁾

1) 金沢医科大学 2) 敦賀市立看護大学 3) 医療法人敦賀温泉病院

認知症の徴候があらわれた人の家族9人を研究協力者として半構造的インタビューを行い、自分の身内に認知症の徴候があらわれた時どう対応しているのかを質的に分析した。研究協力者は9人で、女性が8人、男性が1人であった。認知症の本人との続柄は、娘が5人、嫁が2人、妻が1人、息子が1人であった。本人と同居している者は6人、別居している者が3人であった。

認知症の本人は、家族にインタビューした21～63日前に初回の診察と検査を受けているが治療はまだ始まっていない人で、CDRが0.5から3である。男性が4人、女性が5人であった。全員がアルツハイマー型認知症で、うち1人は前頭側頭変性症も診断されていた。家族は、【問題が起きたその場で対応する】、【問題を事前に予防しようと対応する】、【本人の気持ちを大切にする】、【認知症ではないかと思い、知人に相談する】、【受診できるようにかかわる】、【認知症の進行を遅らせようとかかわる】、【本人が同居家族や親戚と良い関係を維持できるよう対応する】、【心身の衰えに対して情報や制度を利用する】、【家族の負担を増やさないように対応する】、【本人の生活状況を知ろうと対応する】という10の対応をしていた。

(本研究は、平成26年度に敦賀市立看護大学競争的研究費の配分を受けて実施した研究である。なお、本研究は福井県共同リポジトリ (<http://crf.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/>) に掲載し、大学外への情報発信を行っている。)

(4) 患者調査データを活用した福井県嶺南地域の疾病構造の変化に関する研究

研究代表者 喜多義邦 (敦賀市立看護大学)

本研究は、患者調査のデータを統計法第 33 条に基づき厚生労働省の許可を得たうえで入手し、福井県嶺南地区の実際的な疾病構造およびその推移を市町単位で明らかにすることを目的に実施した。

(5) 患者調査に基づく疾病分類別入院者推計数からみた福井県嶺南地域の疾病構造

(研究論文：敦賀市立看護大学ジャーナル第 1 号)

研究者：鈴木隆史^{1) 2)} 野沢和也¹⁾ 喜多義邦^{1) 2)} 交野好子^{1) 2)}

1) 敦賀市立看護大学

2) 敦賀市立看護大学地域・在宅ケア研究センター

【目的】平成23年患者調査の結果に基づいて、福井県内の疾病別入院者数から主として福井県嶺南地域の疾病構造について検討した。【方法】統計法33条に基づく目的外申請を利用して、福井県内の疾病別入院患者数の性別・年齢別、医療圏別の実数と推計患者数を得た。【結果】推計数の割合からみると、嶺南医療圏では「感染症および寄生虫症」、「消化器系の疾患」、「腎尿路生殖器系疾患」が4医療圏中第1位となり、他の疾病に比べて多く、年齢・性別で特徴がみられた。20歳未満における「呼吸器系の疾患」の割合も福井県内の他医療圏に比べて高かった。また、20歳以上65歳未満では、「精神及び行動の障害」が男女ともに著しく多く、この傾向は嶺南医療圏にとどまらず他の医療圏においても同様の傾向を示した。【結論】嶺南医療圏において性別・年代別に注目すべき疾病が見られた。地域における疾病構造を明らかにし、実情に応じた医療需要を推定するためには患者調査等の死亡統計以外の医療統計も併せて分析する必要がある。今後は通院患者も含めてより詳細な分析を行う必要があると考えられた。

(本研究は、平成 26 年度に敦賀市立看護大学競争的研究費の配分を受けて実施した研究である。なお、本研究は福井県共同リポジトリ (<http://crf.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/>) に掲載し、大学外への情報発信を行っている。)

2) 平成 28 年度における研究実績

(1) 認知症に対する意識調査

研究者：畑野相子 家根明子 鈴木隆史 木谷尚美 中堀伸枝 茂庭将彦
(敦賀市立看護大学)

本研究は、住み慣れた地域で暮らせるための地域ケアシステム構築の基礎資料とすることを目的に、地域住民の認知症に関する意識調査を行った。

3. 地域貢献

1) 市民公開講座

市民公開講座として、教員のそれぞれの知識と知恵を活かして、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設している。講座テーマを提示し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでもらい、日時、場所等を調整したうえで実施している。

(1) 平成 27 年度市民公開講座の実績

17 件の申し込みがあり、講演を行った。その概要を表 1 に示した。

敦賀市立看護大学

市民公開講座

敦賀市立看護大学学長 交野 好子

敦賀市立看護大学は平成 26 年 4 月に開学いたしました。同時に大学の付属機関として地域・在宅ケア研究センターを開設いたしました。地域・在宅ケア研究センターは、研究はもとより地域と大学を繋ぐ架け橋の機能をもっています。大学には多くの新しい知識が集結いたしております。教員それぞれの知識と知恵を活かして、住民の皆様や専門職の方を対象とした教養講座と健康講座からなる公開講座を開設することにいたしました。この講座の中からクラブ、サークル、会社等のグループで聞いてみたいと思われるものがございましたら、是非お申し込みいただきたく存じます。日時、場所等は地域・在宅ケア研究センターの担当が調整させていただきますので、よろしくお申し上げます。

I. 一般教養講座

- 健康基礎講座**
からだ・くすりのしくみ、働く人のためのメンタルヘルス
- 英語教育講座**
英語コミュニケーション能力を高め、英語教育を考える
- 情報科学講座**
地域医療の情報化を考え、情報社会を上手く生き抜く

II. 健康講座

- 子産み・子育て支援講座
- 病気にならないための講座
- 病気と仲良く付き合う講座
- 病人の世話をしている家族の支援講座
- 健康長寿のための介護予防講座
- 救急時の対処講座

表1 平成27年度 市民公開講座実施状況

No	対象団体	講座テーマ名	講師	実施日	場所	参加人数
1	敦賀いきいき生涯大学院	治療法の選択を迫られたとき	茂庭教授	5月25日	あいあいプラザ	35
2	敦賀いきいき生涯大学1年生	知っていますかくすりの常識・非常識	山崎(弘)准教授	6月9日	あいあいプラザ	56
3	敦賀いきいき生涯大学院	“いきいき100歳体操”で筋力アップ	家根准教授	6月25日	敦賀市立看護大学	35
4	敦賀市公立保育園主任会	子どもの様子が変と思ったら	吉川教授	7月8日	敦賀市役所	17
5	つるが男女共同参画ネットワーク	認知症への理解を深めるには	家根准教授	7月28日	敦賀市立看護大学	55
6	敦賀いきいき生涯大学院	免疫力を高めよう	高原教授	9月10日	敦賀市立看護大学	35
7	福井県生涯学習センター	産前産後の女性の心の動きと男性の関わり方	岩谷教授	9月12日	福井県生涯学習センター	9
8	敦賀市生涯学習課	産前産後の女性の心の動きと男性の関わり方	岩谷教授	9月26日	敦賀市立看護大学	13
9	敦賀いきいき生涯大学2年生	体温のふしぎ	林助手	9月29日	あいあいプラザ	41
10	中郷地区老人会	認知症にならないための脳の体操	中堀助教	10月20日	中郷公民館ホール	117
11	敦賀いきいき生涯大学院	ハンドマッサージで心も体もリフレッシュ	家根准教授	10月22日	敦賀市立看護大学	35
12	美浜町社会福祉協議会 心配ごと相談員	一般教養講座 (面接技術・傾聴)	長井教授	10月27日	美浜町保健福祉センター	9
13	美浜中学校2年生	病気にならないための講座	山崎(松)准教授	10月31日	美浜中学校	70
14	鯖江市高年大学	頭の健康は足から	北村教授	11月8日	鯖江市市民ホールつつじ	80
15	敦賀いきいき生涯大学2年生	情報を生かした市立敦賀病院活用法	杉浦教授	12月4日	あいあいプラザ	41
16	敦賀いきいき生涯大学1年生	認知症に向きあってみたら	鈴木講師	12月15日	あいあいプラザ	56
17	敦賀いきいき生涯大学院	“後ろ姿”気にしていますか	鈴木講師	1月15日	あいあいプラザ	35

(2) 平成 28 年度市民公開講座の実績

13 件の申し込みがあり、講演を行った。その概要を表 2 に示した。

表 2 平成 28 年度 市民公開講座実施状況

No	対象団体	講座テーマ名	講師	実施日	場所	参加人数
1	KT21 ニギニギの会	くすりのしくみ	山崎(弘)准教授	4月20日	敦賀市健康管理センター	17
2	敦賀いきいき生涯大学院	高齢者の心とからだ	木谷講師	5月10日	あいあいプラザ	32
3	新和町2丁目	急なやまい、けが 気をつけないといけない訴えや症状	高原教授	5月27日	新和町会館	59
4	敦賀いきいき生涯大学1年生	知っていますか？ くすりの常識・非常識	山崎(弘)准教授	6月7日	あいあいプラザ	50
5	敦賀いきいき生涯大学院	夏場の健康	中堀助教	6月21日	あいあいプラザ	32
6	敦賀いきいき生涯大学2年生	免疫力を高めよう	高原教授	7月15日	あいあいプラザ	44
7	つるが男女共同参画ネットワーク	知っていますか？ くすりの常識・非常識	山崎(弘)准教授	7月27日	敦賀市立看護大学	74
8	敦賀いきいき生涯大学1年生	認知症に向きあってみたら	鈴木講師	11月11日	あいあいプラザ	50
9	美浜町福祉課 高齢者支援センター	認知症について	中堀助教	11月15日	美浜町佐田公民館	50
10	西地区老人クラブ連合会	笑いと健康	畑野教授	11月22日	西公民館	97
11	敦賀いきいき生涯大学院	笑いと健康	畑野教授	12月2日	あいあいプラザ	32
12	敦賀いきいき生涯大学2年生	体温のふしぎ	林助教	12月6日	あいあいプラザ	44
13	美浜町社会福祉協議会	相談員の役割と聴くということ	長井教授	2月14日	美浜町保健福祉センター	12

2) 敦賀市認知症カフェ「つながりカフェ」サポート

(1) 「つながりカフェ」の概要

厚生労働省は、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の一つとして、地域での「認知症カフェ」の設置を推進している。敦賀市においても認知症の方やその家族、地域の方々が、認知症に関して気軽に相談できる場、認知症を正しく理解する場を設けることを目的に、平成27年11月から公民館などを活用して、「つながりカフェ」が開始された。

(2) 平成27年度「つながりカフェ」サポートの実績

当センターは、敦賀市から依頼を受け、「つながりカフェ」の開設に向けて協力した。具体的には、①方向性(目的)、②開催場所、③開催頻度、④内容、⑤スタッフ配置、⑥周知方法などの企画に関する検討である。

平成27年度の開催状況は、表1に示す通りで、カフェ当日には毎回1名の教員が参加し、「認知症に関する講話」を担当した。

表1 平成27年度「つながりカフェ」開催状況と参加者数

開催日時・場所			内 容	参加者	
第1回	11/24 (火)	13:30- 15:00	西公民館	①認知症に関する講話	8
第2回	12/8 (火)		北公民館	②レクリエーション	6
第3回	12/14 (月)		疋田会館	③自由交流	23
第4回	12/18 (金)		栗野公民館	④個別相談	1

(3) 平成28年度「つながりカフェ」サポートの実績

平成28年度は、敦賀市担当者と共に前年度の実績を振り返り、つながりカフェの「交流型*」と「普及啓発型**」の2タイプのカフェの企画に協力した。

平成27年度の開催状況は、表2および表3に示す通りであり、前年度に引き続き、カフェ当日には、毎回1名の教員が参加し、「認知症に関する講話」を担当した。

* 「交流型」：当事者と家族を中心としたカフェ

** 「普及啓発型」：認知症への興味や関心がある地域住民が自由に参加できるカフェ

表2 平成28年度「つながりカフェ（交流型）」の開催状況と参加者数

開催日時・場所			内 容	参加者	
第1回	5/25 (水)	13:30- 15:30	あいあいプラザ	①自由交流 ②個別相談 ※教員は、自由交流にて進行を担当	5
第2回	7/27 (水)				2
第3回	9/28 (水)				5
第4回	11/16 (水)				6
第5回	1/25 (水)				4
第6回	3/22 (水)				8

表3 「つながりカフェ（普及啓発型）」の開催状況と参加者数

開催日時・場所		内容	参加者
第1回	8/5 (金)	①認知症に関する講話 ②レクリエーション ③自由交流 ④個別相談 ※教員は、認知症に関する講話を担当	3
第2回	8/23 (火)		23
第3回	8/30 (火)		24
第4回	9/30 (金)		6
第5回	10/28 (金)		3
第6回	11/18 (金)		9

<敦賀市つながりカフェのお知らせ>

出張!

敦賀つながりカフェ

を行います!



日時：平成28年8月5日（金） 中郷公民館
 平成28年8月23日（火） ひばりヶ丘町会館
 平成28年8月30日（火） 東浦公民館
 平成28年9月30日（金） 東郷公民館
 平成28年10月28日（金） 南公民館

※上記会場はいずれも午後1時30分～3時30分（受付午後1時～）

平成28年11月18日（金） 松原公民館（移転後の公民館の予定）

※松原公民館は午後2時30分～4時30分（受付午後2時～）

Q.つながりカフェって何?

～認知症に関する色々な役割の場所です～

- ・認知症や健康に関すること等の相談の場です。
- ・認知症に関する知識等を学ぶ場です。

Q.誰が参加できるの?

- ・認知症の方ご本人とご家族等、どなたでも参加可能です。
- ・地域の方々等、認知症に関心のある方どなたでも参加可能です。



申込み不要

《問合せ先》
 敦賀市役所長寿健康課
 地域包括支援センター「長寿」 担当：猿橋・橋本
 （敦賀市中央2丁目1番1号）
 ☎ 0770-22-8181

《協力機関》
 敦賀市立看護大学（敦賀市本町78-2-1）

参加費無料

<つながりカフェの様子>



平成27年度第3回敦賀市つながりカフェ（認知症に関する講話の場面）

3) 美浜町健康づくりフォーラム

美浜町からの呼びかけを受け、大学および地域・在宅ケア研究センターの周知、地域貢献を目的とし、美浜町が企画するイベント「美浜町健康づくりフォーラム」に参加した。

(1) 平成 27 年度実績

平成 28 年 2 月 28 日、教職員 4 名が参加した。パネル展示コーナーでは、大学および地域・在宅ケア研究センターの活動に関するポスターを掲示、パンフレットを配布して当センターについて PR した。同会場でフォーラムの一環として行われた「減塩メニューの試食」では、大学と当センターの広報を兼ね、来場者に対応した。



(2) 平成 28 年度実績

平成 28 年 11 月 26・27 日、展示コーナーに大学の活動に関するパネル、パンフレット等資料を設置し、大学について PR した。健康測定体験コーナーでは、教員 2 人が二州健康福祉センターとともに来場者（町民 550 名以上参加）の血圧測定を担当した。



4) 地域イベント等の各種ボランティア等への参加

地域からの要望に応じて、学生及び教職員が参加している。

(1) 平成 26 年度実績

参加件数は全部で 8 件あった。ボランティア参加は 4 件、敦賀市各種委員会等への参加は 2 件、地域行事への参加は 2 件であった。その詳細を、表 1、表 2、表 3 に示した。

表 1 ボランティア参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	5 月 31 日	第 4 回福井県障害者スポーツ大会	しあわせ福井スポーツ協会（福井県障害福祉課）	敦賀市総合運動公園	競技補助	教員 2 名 学生 11 名
2	6 月 1 日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市環境・廃棄物対策課	気比の松原	海岸清掃	教職員 5 名 学生 12 名
3	10 月 21 日	市立敦賀病院災害対策訓練	市立敦賀病院	市立敦賀病院	院内患者役	学生 10 名
4	11 月 29 日	福井病院災害対策訓練	国立病院機構福井病院	国立病院機構福井病院	トリアージ訓練における被災者役	学生 6 名

表 2 敦賀市の各種委員会等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	平成 26 年度～	つるがふるさとサポーター	敦賀市政策推進課	地元等	地元への敦賀市の広報	学生 5 名
2	8 月 2 日	第 35 回敦賀マラソン大会参加記念品選定会	敦賀市教育委員会スポーツ振興課	敦賀市総合運動公園	記念品選考委員	学生 2 名

表 3 地域行事等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	9 月 3 日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ	教職員 4 名 学生 3 名
2	11 月 3 日	旗護山登山	杳見壮年会	旗護山	登山参加	学生 4 名 教員 1 名

(2) 平成 27 年度実績

参加件数は、27 年度は全部で 19 件あった。ボランティア参加は 10 件、敦賀市各種委員会への参加は 4 件、地域行事への参加は 5 件あった。その詳細を、表 4、表 5、表 6 に示した。

表 4 ボランティア参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6 月 6 日	第 5 回福井県障害者スポーツ大会	しあわせ福井スポーツ協会（福井県障害福祉課）	敦賀市総合運動公園	競技補助	学生 3 名
2	6 月 7 日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市環境・廃棄物対策課	気比の松原	海岸清掃	教職員 11 名 学生 19 名
3	7 月 25 日	眞盛苑「夏祭り」	眞盛苑	眞盛苑	模擬店手伝い	学生 13 名
4	8 月 1 日	かくだ「夏祭り」	株式会社かくだ	きらめきみなと館	物販・抽選会等手伝い	学生 6 名
5	11 月 1 日	野坂の郷バザー	野坂の郷	きらめきみなと館	バザー会場のスタッフ 飲食コーナーの販売	学生 2 名
6	11 月 8 日	市立敦賀病院 災害対策訓練	市立敦賀病院	市立敦賀病院	災害対策訓練	学生 10 名
7	11 月 8 日	日本 ALS 協会福井支部 2015 嶺南交流会	日本 ALS 協会福井支部	あいあいプラザ	患者との交流会	学生 4 名 教員 2 名
8	11 月 14 日	敦賀医療センター 災害対策訓練	国立病院機構 敦賀医療センター	国立病院機構 敦賀医療センター	トリアージ訓練における被災者役	学生 8 名
9	11 月 29 日	あいあい交流フェスタ	敦賀市福祉総合センター	あいあいプラザ	健康チェックコーナー補助	学生 7 名
10	2 月 11 日	国際小児がんデー 啓発活動	がんの子供を守る会	アピタ敦賀店	啓発活動	学生 5 名

表5 敦賀市の各種委員会等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	平成26年度 ～	つるがふるさとサポーター	敦賀市政策推進課	地元等	地元への敦賀市の広報	学生5名
2	平成27年4月 ～ 平成29年3月	敦賀市 広報モニター	敦賀市秘書広報課	市役所等	毎月の広報紙に関するアンケート(2年間)	学生1名
3	7月28日	第36回敦賀マラソン大会参加記念品選考委員	敦賀市教育委員会 スポーツ振興課	敦賀市総合運動公園	参加記念品の選定	学生2名
4	1月10日	敦賀市成人式 実行委員	敦賀市教育委員会 生涯学習課	敦賀市生涯学習センター等	実行委員として成人式の企画・運営	学生2名

表6 地域行事等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	9月3日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ	学生2名 教職員6名
2	9月4日	敦賀まつり山車巡行	相生町青壮年会	気比神宮周辺	山車の引き手	学生1名 教員1名
3	11月1日	旗護山登山	沓見壮年会	旗護山	登山	学生3名 教職員3名
4	11月7日～ 12月25日	敦賀港イルミネーション ミライエ	「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会	金ヶ崎緑地	イルミネーション作製	学生37名 (ボランティアサークル)
5	平成26年度 ～	畑サークル活動	—	沓見区	野菜作り等	学生18名 (畑サークル)

(3) 平成 28 年度実績

参加件数は、平成 28 年度は 22 件あった。ボランティア参加は 9 件、敦賀市各種委員会への参加は 4 件、地域行事への参加は 9 件であった。その詳細を、表 7、表 8、表 9 に示した。

表 7 ボランティア参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	5月29日	第6回福井県障害者スポーツ大会	しあわせ福井スポーツ協会（福井県障害福祉課）	敦賀市総合運動公園	競技補助	学生4名
2	6月5日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生15名 教職員4名
3	8月27日	眞盛苑「夏祭り」	眞盛苑	眞盛苑	夏祭り運営	学生2名
4	8月28日	フォトログイニング NIPPON 2016 SERIES3 若狭美浜	フォトログイニング NIPPON 2016 SERIES3 若狭美浜	美浜町	救護	学生2名 教員1名
5	9月17日	敦賀市障がい者スポーツ大会	敦賀市	敦賀市総合運動公園	競技進行補助等	学生2名
6	平成28年9月～	こども食堂青空	こども食堂青空	男女共同参画センター	学習ボランティア	学生2名 (随時)
7	11月6日	敦賀市総合防災訓練	敦賀市	敦賀市立気比中学校グラウンド	出展ブース運営	学生3名 教職員2名
8	11月26日	敦賀医療センター災害対策訓練	国立病院機構敦賀医療センター	国立病院機構敦賀医療センター	トリアージ訓練における被災者役	学生7名
9	11月26日	あいあい交流フェスタ	敦賀市社会福祉協議会	あいあいプラザ	健康チェック、ハンドマッサージ等	学生5名

表 8 敦賀市の各種委員会等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	平成26年度～	つるがふるさとサポーター	敦賀市政策推進課	地元等	地元への敦賀市の広報	学生5名
2	平成27年4月～ 平成29年3月	敦賀市広報モニター	敦賀市秘書広報課	市役所等	毎月の広報紙に関するアンケート（2年間）	学生1名
3	7月28日	第37回敦賀マラソン大会参加記念品選考委員	敦賀市教育委員会スポーツ振興課	敦賀市総合運動公園	参加記念品の選定	学生2名
4	1月10日	敦賀市成人式実行委員	敦賀市教育委員会生涯学習課	敦賀市生涯学習センター等	実行委員として成人式の企画・運営	学生2名

表9 地域行事等への参加状況

No	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	5月25日	市議と語る会	政志会	敦賀市立看護大学	市議と語る会	学生11名
2	6月25日	ふくい学生祭	福井学生祭実行委員会	芝政ワールド	学生の企画・運営による学生祭	学生(実行委員)3名他多数 教職員7名
3	7月24日	気比神宮の杜フェスタ	商工会議所青年部	気比神宮周辺	学生ブースの運営	学生8名 職員2名
4	9月3日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ手	学生4名 職員3名
5	9月4日	敦賀まつり山車巡行	相生町青壮年会	気比神宮周辺	山車の引き手	学生1名 教員1名
6	10月15日	百縁笑店街	敦賀市産業経済部	神楽商店街	学生ブースの運営	学生6名 職員1名
7	10月16日	敦賀マラソン大会	敦賀市	中心市街地	選手参加	学生5名 教職員6名
8	10月30日	旗護山登山	杳見壮年会	杳見公会堂前・旗護山	旗護山登山	教職員4名
9	平成28年10月～11月	敦賀FMハーバーステーションパーソナリティ出演	敦賀FM	敦賀FMハーバーステーション	番組参加(パーソナリティ)	学生4名

5) 健康相談室の開室

地域・在宅ケア研究センターの周知ならびに一般住民・学生・教職員の健康管理に役立ててもらふことを目的に、平成28年度（前期；平日、後期；金曜日の11：30～13：30）に健康相談室を開室した。内容は、センター室内に健康測定器具（血圧、血管年齢、体組成等）を配置し、自己測定を通して自分の健康状態を知ってもらふものである。

(1) 平成28年度実績

開室は、前期26回、後期19回開室した。参加状況は表1に示した。

表1 開室日数と参加者延べ数

	開室日数	参加者延べ数
前期	26	86
後期	19	45
合計	45	131

表2 参加者（延べ数）内訳

	一般	学生	教職員	合計
前期	4	30	52	86
後期	4	11	30	45
合計	8	41	82	131

表3 性別にみた参加状況

	男性	女性	合計
前期	17	69	86
後期	5	40	45
合計	22	109	131

(2) まとめ

一般市民の参加を促そうと食堂が営業している昼食の時間帯に開室したものの、一般市民の参加は難しい状況であった。一方、本学の学生や教職員からは定期的な参加があり、本学の学生・教職員へのセンターの周知、健康管理には貢献したと考えられる。今後は、地域住民の健康評価を行うことができるよう、健康に関する情報・データを集積する方法を検討するものとする。

編集後記

敦賀市立看護大学の附属機関として、平成 26 年 4 月に「地域・在宅ケア研究センター」は設立され、3 年を経過しました。センターは、研究と教育を通して地域に貢献していくことを目指して、看護学部の教職員が一丸となって活動してきました。地域の皆さまのお力添えをいただきながら今日に至っていることを感謝します。

活動のまとめを通して、いくつかのことを感じました。

1 つ目は、開設当初から実施している「研究支援」を通して感じたことです。講座受講者数は、初年度は約 50 名と多かったのですがその後は 20 名程度となっております。人数は減っていますが、それを土台にして研究活動は着実に進められているということです。研究指導依頼件数は 10 人程度を推移しており、学会や院内等で発表されています。看護の質の向上に研究は不可欠です。気楽に大学に立ち寄り、研究について自由に話し合うことができる場になってほしいと願っています。大学と地域の看護職が共に手を携えて活動していきたいと思えます。

2 つ目は、平成 27 年度から地域の皆さまに大学に来ていただき、学生や教職員と交流することを目的に実施している「看護大学喫茶」を通して感じたことです。平成 27 年度は 2 回でしたが、平成 28 年度は 3 回開催でき、今年度は 4 回の開催を計画しています。健康に関する知として提供している「健康講座」では、活発な意見交換がなされています。また、健康チェックなどにも積極的に参加していただいています。地域の人々の健康に対する関心の高さを感じました。学生にとっては、地域の人との交流を通して見聞が広がり多くの学びをもらう場になっています。地域の皆さまの健康ニーズ調査などを通して、健康増進に寄与できるよう研究を進めてまいりたいと思えます。また、学生は、地域の皆さまとの交流により豊かに育てられていくことを痛感しました。このような場をますます発展させていただきたいと思えます。

本大学のもつ看護教育研究機能を活かし、知的財産を有効に活用することを通し、地域の看護職の資質向上に貢献することが同センターの責務と考えています。地域と大学、臨床と学生が広く学び合う中で「看護の叡智」を構築していけるように、コーディネーターとしての機能を果たせるよう努力してまいります。

皆様の忌憚のないご意見やご助言、ご指導をお願い申し上げます。

地域・在宅ケア研究センター
センター長 畑野 相子

地域・在宅ケア研究センター 運営会議 構成員

(◎センター長、○センター長代行、五十音順、敬称略)

平成 26 年度

岩谷澄香、交野好子、喜多義邦、鈴木隆史、中堀伸枝、○深沢裕子

平成 27 年度

岩谷澄香、◎交野好子、喜多義邦、鈴木隆史、中堀伸枝、深沢裕子、(事務) 清水典彦

平成 28 年度

木谷尚美、鈴木隆史、中堀伸枝、◎畑野相子、茂庭將彦、家根明子、(事務) 清水典彦

平成 26 年度～28 年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

平成 29 年 11 月 1 日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500

